



矢野中通信

8月号

梅雨明けが待ち遠しい、今日この頃となりましたが、非常に蒸し暑い中頑張る生徒たちに、拍手を送りたいと思います。また、台風11号の動きも心配になりますが、18日から夏休みに入ります。この夏休みは、これまでの学習を振り返るとともに、日頃の学校生活で得ることが出来ない体験や活動が出来るチャンスとなります。大自然に触れ合ったり、地域の方々と一緒に汗を流したり、部活動にとことん打ち込んだりと、心を大きく成長させることの出来る機会となります。

日々の生活が有意義な日となるように、お子様の毎日の生活をしっかりと見守って頂き、8月末には、全員が元気に登校してくれることを願っています。

「すみません」と「ありがとう」

私たちは日常生活の中で、時としてちょっとした親切に出会うことがあります。自分が落とした物を誰かに拾ってもらったり、道幅の狭い場所を通り抜ける時に道を譲られたり、建物へ出入りする時に一緒になった人がドアを押さえてくれたり、エレベーターのボタンを代わりに押してくれたり、横断歩道で自動車に通行を譲ってもらったりといろいろあります。そんな時、親切にしてもらった相手に対して、私たちはどのような言葉を返していますか。

「すみません」と言う場合もあるかもしれませんが、「すみません」という言葉は、お礼を言う時にも使われますが、謝罪や恐縮の気持ちを表す言葉です。確かに、他者から受けた親切に対して、「申し訳ない」という気持ちを持つことも少なくありません。

一方、「ありがとう」は漢字で「有り難う」と記されるように、存在するのが難しいこと、めったにないということの意味します。歴史をひもとくと、平安時代の「枕草子」には、「ありがたきもの、舅(しゅうと)にほめられる婿、また、姑(しゅうとめ)にほめられる嫁」という例があります。

この「ありがたい」とは、元は神をたたえる言葉であったといえます。しかし、時を経て、人に対するお礼の言葉として使われるようになってきました。

こんな時、私たちは「すみません」ではなく、「ありがとうございます」と返したらどうでしょう。私は数年前から、「ありがとうございます」という言葉を返しています。そうすれば、お互いの心が温かくなりませんか。

「伝える HIROSHIMA プロジェクト」

今年の8月6日の平和記念式典に参列する駐日大使らに対し、中学生が英語で平和のメッセージを伝えるプロジェクトが始動しています。これは広島市被爆70年事業の一環で、市教委が市内77校の中学校から寄せられた平和に関する英文を基に、19人の生徒を選抜しました。

この選抜された3年生は、被爆者から体験を聞き、平和について考え、8月6日はメッセンジャーとして当日を迎えます。

その選抜された19人の中に、本校3年生の山田 夏輝君がいます。4月27日に発行された中国新聞にも記事が掲載されていました。その記事の中で、「周囲の人たちと助け合うことが平和につながる。協調性の大切さをメッセージに込めたい。」と答えています。広報ひろしま「市民と市政」にも紹介されました。山田 夏輝君、今後の活躍を期待します。全校生徒で応援します。

